

ミツローでの仕事

ともやすの形

蜜蠟の歴史

蜜蠟は様々な用途に用いられて
きました。
中でも仏像を作る技術は古より
伝えられています。

法隆寺の釈迦三尊像は
蜜蠟鑄造技術で作られた
代表的な仏像です。

細かい形を忠実に表現できる蜜蠟は仏像だけでなく、いろいろな物へ
も用いられました。
また、造形のためだけでなく、薬や染め物にも使われてきました。

原型用のミツローをつくる



左から ミツバチの巣・蜜蠟のかたまり・松ヤニ



蜜蠟と松ヤニを小さく砕き一緒に煮溶かします。
70度以下の温度で1時間ほどゆっくりとかき混ぜながら煮ていきます。
気を抜くとすぐに焦げてしまうデリケートな作業です。



煮えたものを布で濾して不純物を取り除き、固めたものが原型制作用のミツローになります。



ミツローを40度くらいのお湯に1時間ほど漬けて、
ちょうど手の中で揉めるくらいのやわらかさにします。

ミツローをひく



程良い柔らかさになったミツローをひっぱると「ひきめ」と呼ばれる美しい幾重もの線が現れます。これはミツロー独特の表情です。

薔薇をつくる

ともやすの代表作である「薔薇」作りは、ミツローを使い、花びらの1枚1枚を手捻りで作ります。



花の中心から形づくりが始まります。

1枚ずつ外側にかけて花びらを作っていきます。



花としての空間や形の美しさ、花びらの表情などを考えながら組み合わせていきます。

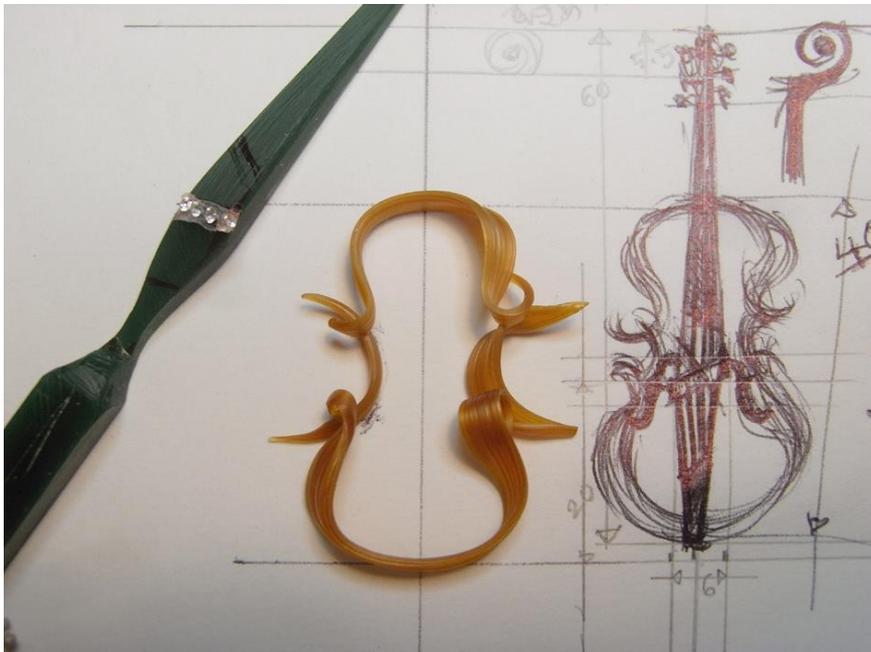
始めにパーツを作りそろえておくのではなく、
組み合わせながら大きさや形を考えてその都度、花びらを
1枚1枚作っていきます。



バイオリンをつくる



ともやすの形は 最初にデザイン画やデッサンはありません。
まずミツローでイメージを形にします。
バイオリンも自然な曲線やラインから生まれました。



形が決まると、その大きさに合わせたパーツ作りのために
デザイン画を描く場合があります。
このバイオリンには 他のパーツを決めるためにデザイン画を描きました。



ミツロー以外にも「ハードワックス」など
形に適した素材を使いパーツを作ります。



大まかに作った形に さらに細部を削りだしていきます。

ミツローなどで作ったパーツを金属に吹いて、立体的に組み合せます。
正面からだけでなく 側面から見たときにも美しく見えるように
高さや空間にも気を配ります。





自然の曲線から生まれた ともやすのバイオリンです。

オーナメント



風神



貴婦人の像

オーナメント制作は続いています。作品は大きな空間へも発表します。
国立新美術館や東京都美術館などにも展示した作品です。